

1. 6 水循環

(1) 現状

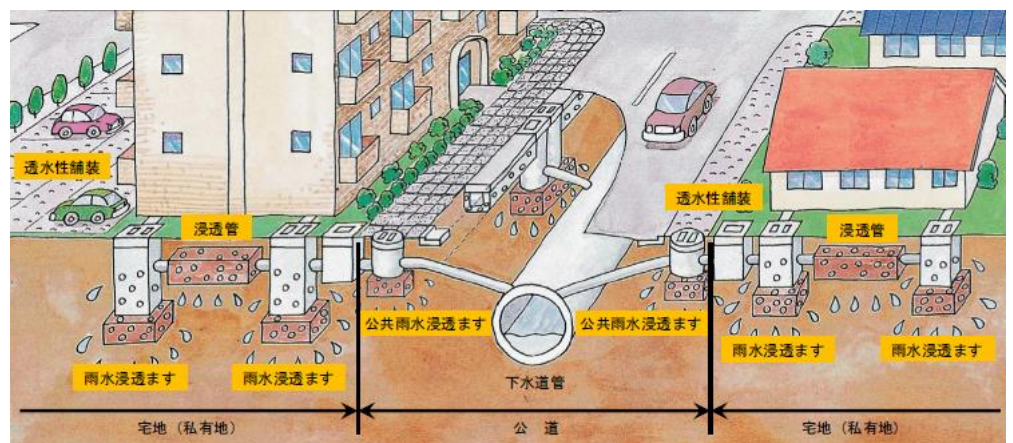
下水道に関する市民のニーズは多様化しており、浸水対策だけでなく、身近な水辺の創出、湧水の復活、生物多様性の向上、ヒートアイランド現象の緩和等の総合的な環境分野に広がりつつある。

このような中で、平成 23 年には有識者や市民等からなる武蔵野市雨水利活用懇談会が発足し、水環境のあり方について本市に提言を行った。また、平成 24 年には懇談会の提言を受けて、市民や事業者との協働による水環境の保全を理念とする「武蔵野市雨水の地下への浸透及び有効利用の推進に関する条例」（以下、「雨水利活用条例」という）を制定し、これに基づき学校等の公有地への雨水貯留・浸透施設の設置、民有地における雨水浸透施設等の設置に対する助成を実施してきた。

(2) 課題

雨水貯留・浸透施設の設置の推進（P16 の再掲）

公有地に既に設置した雨水貯留浸透施設の適切な運用、維持管理を行うとともに、重点地区を定めて各地区の特性に応じた貯留浸透施設の整備等を推進する必要がある。また、民有地における雨水浸透施設等の設置に対する助成を今後も継続する必要がある。



雨水浸透施設等のイメージ
(東京都下水道局)

1. 7 臭気対策 (1) 現状

ビルの地下部分には、汚水、雑排水、厨房用排水等を下水道管に放流するまでの間、一時貯留するための排水槽（ビルピット）がある。

排水槽中で腐敗が進行すると、下水道管への放流時に、雨水ます等から悪臭を発生させる場合がある。

本市では、特に吉祥寺駅周辺において、臭気に関する苦情が寄せられている。

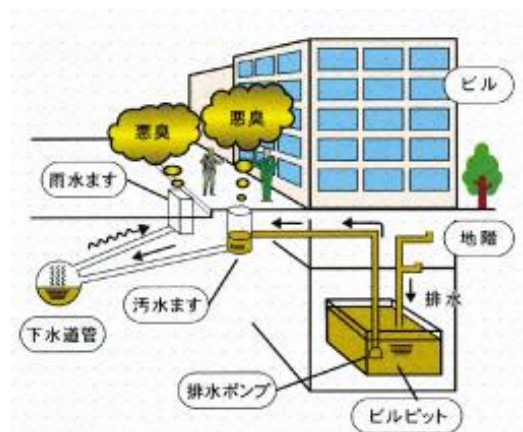
平成13年から17年にかけて現地の実態調査や対策の検討、実証実験を行い、対策に必要なビルピットが判明した。

この結果を受けて、平成21年度よりビルの地下に設置される排水槽等の改善工事のための助成制度を実施しており、平成27年度には補助額を増額した。

(2) 課題

助成金のPR・効果的な臭気対策の検討

ビルピット改善に対する助成金を積極的にPRし、地域と協力しながらまちぐるみで臭気対策を行う必要がある。また、定期的な下水道管の清掃、防臭器具の設置等、効果的な臭気対策の検討を引き続き進める必要がある。



ビルピット臭気発生
(東京都下水道局 HP)